



2015年1月号

今月のテーマは、  
「昭和基地ジオラマと  
南極観測隊員用個室」  
です。



今月は「昭和基地ジオラマと南極観測隊員用個室」を紹介するよ！  
紹介してくれるのは、金 高義（きむ こうい）さんです。

南極昭和基地の建物には、画期的な試みがいくつも行われてきました。そのひとつが、木製断熱パネルの完全プレハブ方式を日本ではじめて実現したことです。これによって、建築工事をほとんど知らない観測隊員でも、昭和基地での木製断熱パネル建築の組み立てを整然と行うことができます。展示されている隊員用個室の壁は実際の木製断熱パネルです。日本と昭和基地では、日本の方が6時間進んでいます。また、昭和基地は南半球にあるため日本との季節も逆転しています。ライブ中継ではそれらの昭和基地の様子をリアルタイムで見られます。運がよければ、元気に除雪作業をしている隊員の様子も見るすることができますよ。



金さんはどんなお仕事をしているのですか？

東南極大陸氷床には標高 3810m もの高さを持つドーム状の地形が存在します。その頂上・ドームふじに新たな内陸基地施設が計画されています。氷床上の建物には自重や吹きだまりの影響で雪地盤が不均等に沈降して、建物が傾く不具合が発生します。私はその対策として強固で一様な圧雪地盤の造成方法を研究しています。